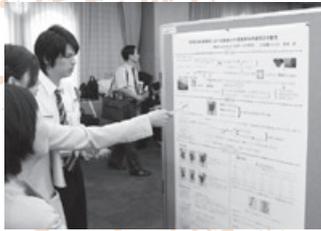


課題研究を学会発表&新聞に掲載!



ポスター発表での質疑応答

9月11、12日にアクトシティ浜松コンgresセンターにおいて行われた、日本防菌防黴学会第35回年次大会において、本学科3年生の天願ウゴルイスさんが課題研究で行った内容を発表しました。課題研究は、学生自らテーマを提案し、指導教員との相談のもと研究を進める科目です。課題研究の内容の学会発表は昨年の石鳥谷景子さん(現在、米国シアトルにて海外バイオ研修IIに挑戦中)に続いて二人目ですが、3年生での学会発表も異例です。大学での発表とは緊張感の異なる学外の専門家や研究者からの厳しい質問に、多くのことを学び、実感してくれたことと思

います。1、2年生の皆さん!課題研究への積極的な挑戦を待っています。また、発表内容には多くの方々に興味を持っていただき、10月20日付けの化学工業日報に掲載されました。(関連記事を本誌P.29に掲載)

海外バイオ研修II
【現地報告レポート】

現在、米国シアトルで行われている「海外バイオ研修II」に3年生の石鳥谷景子さんと魚崎祐一さんが参加しています。期間は6ヶ月、休学扱いとせず(つまり留年せず)留学することができます。9月上旬に出発した魚崎さんから元気な様子が送られてきました。

留学レポート

My First Impression 3年 魚崎祐一

2ヶ月前、シアトル空港に着いた途端、空気の違いを僕は感じました。幼い時に外国に行ったことがあります、ほとんど記憶はありません。海外に来るのは初めてといっても過言ではない状況で、こちらでどんな生活が待っているのか不安と期待に胸を躍らせたのを覚えています。もう2ヶ月が経ったのかと思う反面、英語漬けの毎日を送る中で生まれる話せないことへの屈辱感やこのままでは...という焦りも感じます。シアトルに来て思ったことを挙げるなら、やはり「表現の仕方」に違いがあるということです。つまり、日本人は直接的ではない表現が相手を傷つけないから好まれます。一方、アメリカ人は物事を直接的に表現し自分の意思をはっきり伝えようとし、今、文化の違いを肌で感じています。



ハロウィンでの仮装パーティで仲間と(一番右が魚崎さん)

第3回
応用バイオ科学科・
高等学校自然科学部合同発表会

10月4日に第3回神奈川工科大学応用バイオ科学科・高等学校自然科学部合同発表会を開催しました。当日は神奈川県内の高等学校の発表に加え、応用バイオ科学科からは、3年生が発表しました。前期の自主テーマ実験IIで優秀賞を受賞した阿部健太郎さんが「コーヒーの抽出条件によるカフェイン量の変化」、古原秀美さんが「乳酸菌の違いによるGABA生産量の比較」について、天願ウゴルイスさんは先日の防菌防黴学会での内容を発表しました。また、澤井淳准教授が「遠赤外線食品および健康への利用」と題した講演を行いました。高校からは、麻布大学付属淵野辺高等学校の野島正幸先生から「植物の組織観察」、高校2年生の西谷智之さんと池田裕亮さんからは、翌週に参加する「バイオコンテスト」への出展作品に関する大変興味深い発表が行われました。また、県立鎌倉高等学校は平成20年度のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)において本学科で有機合成実験、国際バイオ特別実習を行いました。今回は小倉慧さん、小嶋祥也さんが「平成20年度SPPにおける応用バイオ科学科での研究テーマ」について発表が行われました。発表会後は、12Fカフェテリアで懇親会を行い、恒例の表彰状が本学科長より贈られました。

学会発表を終えて

3年 天願ウゴルイス

日本防菌防黴学会で研究を発表できる機会を得て無事に発表することができました。テーマは「切り花の品質保持における焼成ホタテ貝殻粉末の適用の可能性」というもので、内容は産業廃棄物であるホタテ貝殻を使って切り花の鮮度保持剤に利用するというものです。研究には1年以上かかりとても大変なものでしたが、発表では真剣に聞いて頂き、またアドバイスを頂いたり大変勉強になりました。特に質疑応答での鋭い質問では、自分では気がつかなかった視点に気づくことができました。内容が目ざされ新聞にも掲載されました。学会発表を通して得たことを、これからの学生生活に活用していきたいと思っています。



小雨が時折降る少し肌寒い中、学生たちは元気に学園祭で活躍していました。応用バイオ科学科では、有志学生による利き酒のイベントが行われました。3年生の生月俊也さんや岡田知慧さん、瀬川洋平さん達、2年生の辻健史郎さんと福森誠さん、西田拓さん

学園祭で大活躍!
イベント“利き酒”“焼き餃子”は大人気!

達が中心になって、夏前から企画を練り、利き酒で使用するぐい飲みをKAIT工房で作成したり、学科で学んだ生化学や微生物学の内容を盛り込んだポスターを作製したりと、まさに手間暇かけた手作りの企画を行いました。参加した方々は、約40種類もある日本各地の地酒の中から好みのものを選んで飲み比べて楽しんでいました。また、同じく3年生の有志が中心となって、焼き餃子の模擬店を出店しました。リーズナブルな値段で味もよく、常時お客様が溢れることなく盛況でした。模擬店は、1年生の猪又真麻さん、佐々木亜由美さん、田澤希望さん達も手伝っていて、利き酒組と合わせると、応用バイオ科学科棟の前は普段はなかなか見られない、動く顔をした学生でいっぱいでした。その他、各種サークルなどの模擬店でも活躍しており、いたるところに応用バイオ科学科生の活躍する顔を見ることができました。

<利き酒イベント参加学生>3年生:生月俊也さん、岡田知慧さん、瀬川洋平さん、田中祐太郎さん、芹澤宏之さん、2年生:白井あすかさん、辻健史郎さん、福森誠さん、西田拓さん、長崎潤さん、岩倉幸太郎さん、牧野真則さん、藤本陸さん、菅亮介さん、川村瑠美さん、高杉麻衣子さん、鈴木諒さん、清家理さん、齋藤勇樹さん
<餃子店参加学生>3年生:野島幹之さん、金澤健太さん、齋藤一輝さん、天願ウゴルイスさん、西牧哲郎さん、田島由昌さん、狩野安利さん、折戸雄一郎さん、仲本拓也さん、岡部義宣さん、小林豊さん、1年生:猪又真麻さん、佐々木亜由美さん、田澤希望さん

七沢幼稚園で
自然観察

昨年12月に続いて第2回目の実験教室を9月13日に七沢幼稚園で開催しました(幼稚園との交流としては第3回目)。天候にも恵まれた当日は、園歌による子供たちの歓迎を受けた後、観察したいものを屋外で集めて実体顕微鏡で観察する班と、ミジンコや微生物のサンプルを光学顕微鏡で観察し親子でスケッチをする班に分かれてスタートしました。

今回は3年生の岡田知慧さんを中心として準備を進めました(参加者:岡田知慧さん、生月俊也さん、石井良枝さん、島内孟紀さん、岩見亜紀さん、辻健史郎さん、土橋恵さん)。大変だったと思いますが、この企画は子供たちにとっても喜んでもらっています。また、企画として自分たちが楽しいのはもちろんですが、見たり、描いたり、話したりした事が、きっと園児達の成長にもつながると思います。

実験教室の後、内田文江園長から感謝のメッセージをいただきました。あわせてご紹介します。

園長先生からの
感謝のメッセージ

「何だ!!何も見えないぞ。」
「あつ、動いている。これ何だ!!」

顕微鏡をのぞいた子ども達の感動は、一人ひとり違ったことを知りました。工科大の皆さまがお帰りになったあと、子ども達が描いたレンズの向こうの絵は、全員違っていたのです。皆さまから初々しい子ども達の心に大きな刺激を頂き、私も胸をわくわくさせました。七沢の里山は、子ども達にとってよるのびのびの広場であり、夢の溢れる世界です。そこから自分の選んできた物をレンズを通して見た驚きは、事実から思考を高めていくレベルに入るとする彼らに、得たい経験となりました。

昭和23年、文部省(当時)が示した幼稚園の目的は、「幼稚園は幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する事を目的とする。」とありますが、それは今も変わりません。子ども達の心身の育ちを見つ、環境をどう設定するかが保育者の役割となります。テレビでもなく絵本でもなく、自分の目で事実を見させて頂き、感動を受けとめさせてもらい、本当にありがとうございました。

付記:世の中の人間関係、特に親の子どもを理解の現実、驚くことが多くなりました。学生の皆さまが将来、父となり母となった時に、子どもを温かく見守ることができればと思います。皆さまのご来園を心よりお待ちしております。